



トガリネズミラヴァー
六田晴洋の

私たちの ご近所さん



VOL. 22 「寒さが作り出す光景」

凍った湖を渡るエゾシカも、夕焼け空に現れるサンピラーも、厳しい寒さがあるからこそ作り出される光景です。近年、温暖化は確実に進行していると感じます。湖は凍り始める時期が遅くなり、凍る面積も狭くなっています。そもそも、しばれる寒さの日ってこの冬何日あったっけ？と。

寒いのは私も苦手ですが、こうした美しい光景は、そのうち見るのが難しくなってしまうので



凍った湖を駆けるエゾシカ



サンピラーとワシ

PROFILE

六田晴洋 ろくた はるひろ

1986年生まれ。

2021年に白糠町へ移住。

大学卒業後、フリーランスの

カメラマンやディレクターとして野生動物や自然風景を撮影している。<https://rokutaharuhiro.com>



が、もう少し早かったり遅かったりしたら遭遇できていませんでした。巡り合わせて不思議なものです。

湖の水面が凍るとエゾシカたちはその上を渡るようになり、ある森があり、写真の右には寝ぐらです。上の写真の右には寝ぐらである森があり、写真の左には食事場所である草原が広がっています。湖面が凍ること、その2箇所を最短距離で行き来でき

しょうか。

凍った湖はシカの近道

るようになるのです。夕方、ゾロゾロと森から出てくるエゾシカたち。でもすぐには湖を渡らず、いつまでもモジモジもじもじ。誰が前頭を行くのかを互いに押し付け合っているのでしょうか。そんな時、これらの存在に気付かれるとエゾシカは森へ帰ってしまうので、私は草原の草に隠れながらじっと待っていました。ようやく準備

が整い、猛ダツシユするエゾシカの群れ。オオワシはすぐ近くでそれを眺めています。

光の柱、サンピラー

じれったいエゾシカのせいです。すっかり遅くなってしまったなあと、思いながら機材を片付けている時。ふと空を見上げると、サンピラーが！「おおー！」と

しばらく見入った後、「そうだ、撮らなきゃ！」と、我に返って撮影した一枚。光の柱のように見えることから「太陽柱」とも呼ばれるサンピラー。日の出や日の入り時、空気中に浮かぶ氷の結晶に太陽の光が反射することで発生するとても珍しい現象です。シカ撮影の完了